

フレンドリー

FRIENDLY



平成28年度を振り返って



ベルギー・ナミュール市学生訪問団受入



外国語基礎会話講座



国際交流フェスティバル



就学前外国人児童日本語等指導事業



地域国際交流事業



外国人市民の日本文化講座



アメリカ・ビーバートン市、ユージーン市高校生研修派遣



にほんごおしゃべりルーム



多文化紹介講座



ボランティアの集い



外国人市民のための神輿体験



オーストラリア・グレンアイラ市小・中学生研修派遣



日本語指導ボランティア講座



外国人市民のための浴衣着付け体験



ドイツ・シュツットガルト市中学生研修派遣



マンツーマン方式日本語学習支援



日本語教室

No. **84**
2017
MARCH

第1回大垣市高校生アメリカ合衆国 オレゴン州 ビーバートン市、ユージーン市研修派遣

(10/14~10/22 高校生10名、引率者3名)

日程表

10/14	出発 — 日付変更線 — 到着後、ビーバートン市(市役所、警察署、NIKE本社) その後ユージーン市へ移動
10/15、10/16	ホームステイプログラム
10/17、10/18	高校訪問(3校に分かれて訪問)
10/19	ジョージフォックス大学、ホームパーティー
10/20	コロンビア溪谷、マルトノマ滝、マウントフッド
10/21	オレゴン出発し、日本へ帰国
10/22	到着



▲ビーバートン市役所にて



Beaverton
OREGON

ビーバートン市



由井 香菜子
(大垣北高校2年)

市役所はとても明るい雰囲気、デニー・ドイル市長が温かく迎えてくださいました。市長は、ビーバートン市にはナイキ本社やIT関連企業が立地しているのだと教えてくださり、後にナイキ本社の訪問を控えた私たちは、さらに期待が高まりました。次に、ビーバートン市警察を訪問しました。警察官のラムさんが、警察の装備やライフルを見せてくださったり、施設内の案内をしてくださったりしました。施設内では、実際に使われている留置場やオフィスも見学することができました。さらに、ラムさんが私たち全員に手錠をかけてしまい…なかなかできない貴重な経験でした。



▲デニー・ドイル市長(左から2人目)と記念撮影 ▲警察署で手錠をかけられて…



ユージーン市



子安 紗世
(大垣北高校2年)

木が多くて、大きな川もあり、自然がとても豊かでした。街道の両側に木が植えられており、10月に訪れたため、木が紅葉していて落ち葉もおちていて景色がとてもきれいでした。街やお店に行くと、みんな声をかけてくれ、自分が上手に聞き取れなかったり、話せなかったりすると、ゆっくり話してくれて「どこから来たの?」とか「何しに来たの?」と聞いてくれました。本当にみんな親切で、気遣いをしてくれるとても良い街でした。ユージーン市には大きくて立派なオレゴン大学があります。多くのキャンパスがあり、緑も豊かで学習しやすいような環境でした。私はホストマザーがオレゴン大学で教師をしていたので、大学の授業を受けさせてもらうことができました。先生が生徒に問かける方式で、生徒は笑ったりしながら楽しそうに授業を受けていました。



▲オレゴン大学キャンパス



▲ユージーン市役所

ジョージフォックス大学



豊田 萌
(大垣北高校2年)

キャンパスの中心にはジョージフォックス大学のシンボルと呼ばれる大きな時計台があり、そのまわりでは、学生たちが友人と会話していたり、待ち合わせをしていました。私たちの高校にも大きな時計台があって、大垣北高校のシンボルともいわれているので共通点だと思いました。実際に授業が行われている教室も見学させていただきました。そこでは、美術の授業が行われていました。実際に授業が始まってみると、すべては理解できないものの、ところどころ理解できることがありました。また、教授の一方的な授業ではなく、学生もたまに発言したり質問したりして、高校訪問した時のように積極的な雰囲気の授業でした。この経験は、将来留学をはじめとする海外での生活を意識する大きなきっかけとなりました。



コロンビア溪谷、マルトノマ滝、マウントフッド



箕浦 将也
(大垣北高校2年)

コロンビア溪谷、マルトノマ滝では、僕が思っていた以上に滝が大きく、迫力がありました。また、上のほうへ上がると、さらに近から滝を眺めることができました。とても立派で、自然の素晴らしさを感じました。マウントフッドに行きました。とても高い山なので雪が積もっていました。久しぶりの雪に興奮ぎみの僕たちでしたが、外に出ると、あまりにも寒かったのでみんなすぐに室内に戻りました。オレゴンには本当に自然が豊かな地域で、自然と街が共生して一体化しているといった印象を受けました。オレゴン研修最終日にこのような美しい自然をみることでよかったです。





ホームステイの思い出



橋本 侑奈
(大垣北高校2年)

ホストファミリーと初めて会うまでは、不安の方が勝っていたかもしれません。しかし、ウエルカムボードを持って待っていてくれた家族をみると、緊張がほぐれていくのが自分でもわかりました。やさしい家族であることが一瞬でわかりました。まず、家族が連れていってくれたのはアメフトの試合でした。その会場には、ホストファミリーのマシュー君がいました。彼はマーチングバンドに所属していて、試合のハーフタイムに演奏していました。日本では高校の試合で演奏をするようなことは、私は直接見たことがないのでここでアメリカとの文化の違いを実感しました。



山戸 文明
(大垣北高校2年)



ホームステイで、緊張はしないようにしていましたが、少し緊張してうまくコミュニケーションをとることができませんでした。でも丁寧に家のことについて教えてくれたり、家で一番快適なところを僕の寝室にしてくれたり、ホストファミリーの優しさを大いに感じられてとてもうれしかったです。ホームステイのほとんどが雨でしたが、ショッピングに行ったり高校のバスケの試合に連れて行ってくれたりして室内でも十分楽しめました。また日本の文化とアメリカの文化の違いを感じることができました。

高校訪問

【ノースユーージーン高校】

どの授業もとてもアクティブで生徒主体の授業ばかりでした。生徒が居てこそ成り立つ授業だと感じました。日本では、先生の話を一方向的に聞くという授業が一般的なため、アメリカの授業がとても新鮮でした。また、どの生徒も積極的に分からないところがあるとすぐに手を挙げ、先生に質問していました。そして、どの生徒が当てられても、自分が分かったところまででも、自分の意見を怖気づくことなく堂々と発表していました。このことは、私も含め多くの日本人が苦手とすることだと思うのですがいいと思ったし、同時に学習していきたいと思いました。



木村 莉子
(大垣北高校2年)



▲学校生活についてのプレゼンをしました。



【チャーチル高校】

2日目は1時間目から4時間目まで団員4人一緒に日本語クラスで授業を受けました。私たちが主にしたことは、大垣北高校についてのプレゼンをすることでした。事前に練習してきたが、実際に授業でやってみるとほとんど原稿どおりに進みませんでした。日本語クラスの生徒と先生が私たちのプレゼンに興味を持ってきて、写真の細かい説明や学校の校則などについて次々と質問を投げかけてくれたからです。予想もしていなかった状況に戸惑いつつも、私たちの精一杯の英語で答えたら向こうの方たちもちゃんと理解してくれて嬉しかったです。



木田 有紗
(大垣北高校2年)



広々とした廊下と生徒のロッカー。



▲日本語クラスの教室

【サウスユーージーン高校】

私のホストシスターは保育系志望だったので、保育の授業を受けました。普段は教室での授業で、週に2回、学校に隣接している保育園での実習があるそうです。そこでは、まず最初に学校の周りを散歩して、散歩が終わると保育園に戻り、中にある遊具で遊びます。子どもたちは好奇心旺盛で、散歩をしてもすぐにふらふらと歩いていってしまったり、喧嘩をし始めたりと、監督の先生がいるわけでもないので、楽しいばかりではなく大変な授業なのだと思います。でも、大変だけどここで頑張ることで、将来仕事に就いた時にここでの経験を生かして仕事ができるから素敵だと思いました。



川瀬 咲来
(大垣北高校2年)

研修を終えて

自分の思いを伝えることや、相手を理解することの難しさ・重要性、それが出来たときの喜びや充実感など、9日間で一人一人が言語の壁をどのようにして越えるかという課題を模索し、自分の出来る最大限を尽くしました。感謝や喜びを笑顔で伝えることなど、どれも完璧にできたわけではありませんが、そのようなコミュニケーションを通して現地の人とかけがえのない絆を結ぶことができました。この研修を通して学んだ日本とアメリカの文化の違い、高まった言語能力、海外に対しての意識、そして現地の人と結んだ絆など、かけがえのない宝物をたくさんつくることができた僕たちだからこそ、将来的には積極的な国際交流をしたいと強く感じています。この経験を必ずや自分達の糧として、誇りとして、人生にわたって生かしていきたいです。

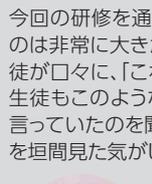


鷲見 拓哉
(大垣北高校2年)



団長 石神 政幸
(大垣北高校 教頭)

将来、この10名の生徒たちが、大垣市の、あるいは岐阜県の、日本のリーダーとなって、世界に羽ばたき活躍してくれることを願っています。そのときが、本当の意味での、この事業の成功であろうと思っています。大垣市の未来と子どもたちの無限の可能性に触れることができ、本当に楽しい研修でした。



総務 安藤 莉奈
(大垣北高校 教諭)



総務 吉安 三恵
(国際交流協会職員)

オレゴンの人々との交流、大学や企業訪問、自然との触れ合いなど貴重な経験ができ、多くのことを感じ学びました。生徒たちの交流の様子、そして物事に対して積極的に挑戦しようとする様子を目の当たりにして、これからの国際社会で生きていく彼らが、当事業の目的である「将来国際的に活躍できるグローバルリーダー」となってくれることを確信しています。

第11回大垣市中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣

(7/26~8/2 中学生8名、引率者3名)

日程表

7/26	ドイツへ出発 ホストファミリーと対面
7/27	学校訪問、表敬訪問、ペンツ博物館
7/28	ノイシュバンシュタイン城見学
7/29	ヴィルヘルム動物園、チョコレート工場、懇親会
7/30	ホームステイプログラム
7/31	ホストファミリーとお別れし、フランクフルトへ
8/1	日本へ向けて出発
8/2	帰国 家族が待つ大垣到着



▲出発式で大垣市長に研修の決意を述べました。



▲ホストファミリーと最後のお別れ(シュツットガルト空港にて)

表敬訪問・市内見学



永井 かのん
(北中学校2年)

私たちがドイツに来て2日目、シュツットガルトの市役所へ表敬訪問に行きました。噂に聞いていた、ドアのない観覧車のような、飛び乗るエレベーターがありました。私たちはそのエレベーターにホストフレンドと一緒に乗りました。乗ろうとする間にも動くので、ハラハラしました。でも、とても面白かったです。市長さんたちのお話を聞いたり、DVDを見て、違う国籍の人や、違う言語の人がたくさんいて、近代的でありながら、自然や建物がきれいな街だと感じました。市役所はとても立派でした。



▲市役所の方からお話を聞きました。



扉のないエレベーターにハラハラ、ドキドキ。



▲電車に乗って市内見学へ



▲新宮殿前のシュロス広場

旧宮殿や新宮殿などの立派な建物がありました。初めてみる景色は、絵画のような風景でわくわくしました。宮殿の近くの広場の芝生で、みんなが心地よさそうに寝転がってくつろいでいました。公園には立派な噴水があり、勢いよく水が溢れています。新しい建物の中に、古い建物があり、石畳の道路が多くありました。歴史を感じる「Theヨーロッパ」というような、中世の雰囲気ただよう、きれいな街並みでした。

ケーニギン・シャルロッテ高校訪問



中村 伊吹
(興文中学校2年)

学校に到着するやいなや驚いたことは、敷地が広いことと校舎などの建物がカラフルだったことです。日本では、学校というのだいたい同じような建て方や色使いですが、ドイツの学校は学校ごとに特色があるのだろうなと感じるほどでした。学校の中に入ると、初めにドイツの学生の皆さんと仲良くなるためのゲームをしました。日本でもよく行うフルーツバスケットでした。Bione(ぶどう)、Banana(バナナ)、Apfel(りんご)、Erdbeere(いちご)の4種類のフルーツでグループを分けて行いました。ドイツ語が難しく間違えましたが、とても楽しくできました。これらのゲームを行うことで、ドイツの学生の皆さんとぐっと距離を縮めることができました。

ノイシュバンシュタイン城



▲お城の前で記念撮影



ドイツといえば、ソーセージ。おいしかったよ。



「白鳥城」とも呼ばれる城、ノイシュバンシュタイン城に行きました。この城は有名なので、日本でも、写真を何度か見たことがありました。しかし、自分の目で実際に見たとき、写真からは伝わってこなかった城の美しさと迫力に、言葉を失いました。城に着き、オレンジ色の入り口から壁の内側に入ると、外からは見ることで見えない景色に感動しました。



榎並 美月
(東中学校1年)



▲ケーニギン・シャルロッテ高校



▲ドイツの学生とフルーツバスケットで交流



河村 綾乃
(東中学校2年)

チョコレート作り体験

チョコレート作り体験をしました。温かいチョコレートを固まらないように、スプーンを使って型に入れ、型を板に軽く叩くようにして、空気を抜く作業がとても大変でした。完成したチョコレートは、自分一人で食べるだけでなく、友達と交換したりして、いろんな味を味わうなどしました。オリジナルチョコレートを作ったことにより、みんなと教え合ったり、チョコレートを交換して会話が增えたり、いろんな味を楽しむことができました。

みんなで交換して食べたよ。



ヴィルヘルマ動物園



世界中から保護されたサルたち。

ニホンザルなどたくさんの種類のサルがいました。そのサルたちは、親がいなかったり、親から虐待・育児放棄を受けていたりしたサルたちで世界中から保護されヴィルヘルマ動物園で飼育されています。動物たちと触れ合えるところもありました。そこではヤギと触れ合いました。思っていたより大きくて最初は少し怖かったけど、慣れてくるとヤギの方も寄ってきてくれて、なかなか出来ない体験ができたと思います。



棚橋 美友
(星和中学校3年)

初日はお互いに緊張していましたが、徐々に打ち解けていき、最後の夜には家族全員で何時間も話すようになっていました。私は、日本の学校、家族、大垣のことなど、色々な話をしたのですが、ホストファミリーのみなさんは、うれしそうにずっと耳を傾けて聞いてくださいました。クリスティーナとは、一緒に街をサイクリングしたり、ピアノを弾いたりしました。また、同じ部屋で寝かしていたため、毎日、沢山おしゃべりしました。クリスティーナをはじめ、ホストファミリーと過ごした時間は、一つ一つが今でもしっかりと記憶の中に残っていて、私にとっては、大切な宝物になっています。

ホームステイの思い出



河原 智華
(西部中学校1年)

山へハイキングに行ったよ。



▲ホストファミリー、近所の人と記念撮影

ホストフレンドはマーヤちゃんと言って、お母さんとお父さんは、セルビア人です。それに8歳の妹サラちゃんがいきました。ホームステイで一番心に残っているのは、マーヤちゃんだけでなく、家族のみんなとコミュニケーションをとったことです。お父さん、お母さん、サラちゃんは英語が分からず、思うように会話ができませんでした。辞書や本などを通して、日本について教えたり、ドイツやセルビアについて教えてもらったりしました。また、日本に興味があるようで、夜私がお辞儀をして「おやすみなさい」と言うと、お父さんもお辞儀をして「おやすみなさい」と返してくれました。両手をそろえてお辞儀してくれたのはうれしかったです。5日間だったけど、私にはドイツに大切な家族が出来ました。



高木 里枝
(江並中学校2年)

全員のホストファミリーとの懇親会



伊藤 大記
(星和中学校2年)

懇親会では、短い練習時間だけで成功できるか不安でしたが、それぞれが「がんばるぞ」という、強い思いで臨み、練習の成果を出し切れました。そして、日本の素晴らしさを一杯伝えることができたのでドイツの方々にも興味を持って頂けたと思います。はじめは、全員で「翼をください」の合唱をしました。僕は男子パートで2人だけだったので、他と比べて声量が少なく、練習では声が足りないことが課題でした。しかし、本番ではしっかり声を出し、たくさん拍手が貰えたので、ほっとしました。紹介が終わったあと、ホストファザーに「あなたの発表は素晴らしかったです。」と褒められて練習の成果とやりがいを感じました。

合唱、茶道、書道、折り紙など披露したよ。



団長 山本 学
(東中学校校長)

このドイツ研修を通して、国際理解や外国語を学ぶことについて自分の考え方を深めることができました。生徒による日本文化紹介で、「一期一会」という四字熟語を毛筆で書き、意味を紹介した生徒がいましたが、まさにその通りだと思いました。このドイツでの体験をこの研修に参加していない生徒にも伝え、広めていきたいと思っています。



総務 吉安 三恵
(国際交流協会職員)

ベント博物館、ノイシュバンシュタイン城、リッタースポーツチョコレート工場、多くの見学地帯を回るごとに、ドイツの歴史や国民性に共感を覚える自分がいました。なによりもホストファミリーと一緒に食事をするときの会話は、一番楽しみになりました。遠い国の人が最も近くに感じられたひとときを過ごすことができました。



総務兼通訳
小窪 裕香
(東中学校教諭)

最終日は、全員が涙、涙のお別れでしたが、それはホストファミリーと充実した日々を過ごし、ホストファミリーが第2の家族になった証だと思いました。団員たちが、お別れのときに誓った再会を胸に、距離は遠いけれども心は近い国になったドイツの家族とこれからつながりを持っていくことを願っています。

第6回大垣市小・中学生オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣

(8/17~8/24 小中学生9名、引率者3名)

日程表

8/17	オーストラリアへ出発(機内泊)
8/18	到着、コーフィールド小学校訪問、 歓迎レセプション、ホストファミリーと対面
8/19	グレンアイラカレッジ訪問
8/20	メルボルン見学
8/21、8/22	ホームステイプログラム
8/23	ホストファミリーとお別れ シドニー見学
8/24	帰国 家族が待つ大垣へ



▲出発式で大垣市長に研修の目標、決意を述べました。



▲グレンアイラ市役所内の日本庭園にて

事前研修



山崎 美弥
(北中学校3年)

第1回目の事前研修で私たち団員は初めて研修を共にする仲間と顔を合わせました。2回目の研修では、目標決めをし、そしてパフォーマンスはリコーダーとアカペラに決まり、この日から練習が始まりました。最初は不安がたくさんありましたが、事前研修を重ねていくうちに自信をもてるようになり、出発の日を一つの心配もなく迎えることができました。

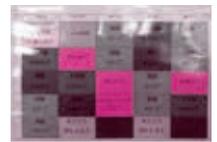
自分たちで協力し
取り組みました。



▲目標「一期一会～積極的に
学び高めあう～」に向かって
研修が始まりました。

コーフィールド小学校訪問

フォークダンス、じゃんけん
ゲームをして交流したよ。



▲日本語で書かれた掲示物が
たくさんありました。



英語と日本語のバイリンガル教育をしていることが分かりました。たくさんの語学を学ぶことで、豊かな人間性と思考力を持った子どもを育てることを重視しているそうです。5歳児(年長)のクラスではみんなでフォークダンスを踊りました。言葉の壁を越え、みんなで一緒に踊るのはとても楽しいひと時でした。



中西 美来
(日新小学校6年)

歓迎レセプション



松本 優羽
(江並中学校2年)

いよいよ僕たちの本番がやってきました。練習の時、出だしがそろわなかった時があったから不安でしたが、しっかりとそろえることができました。そしてすべての出し物が終わると、大きな拍手がわきあがって、本当にうれしかったです。心を一つにすることは、集団で何か成功させるために、最も大切なことなのだ、改めて思いました。全員で発表したあの10分間は今でも忘れられません。



▲ニール・ピリング市長から温かい
歓迎のお言葉をいただき、
ホストファミリーと対面しました。



▲リコーダー「オーラリー」[威風堂々]
合唱「believe」を披露しました。

グレンアイラカレッジ訪問



▲歓迎会は全校生徒が集まりました。



歓迎会では司会の方が、日本語をしゃべってくれたり、みんなで日本の国歌を歌ってくれたりとても手厚く歓迎してもらえました。次にホストファミリーのクラスの授業を見学しました。まず、体育はリレーとバスケットボールでしたが、私たちはバスケットボールと一緒にやらせてもらいました。この訪問でみんな優しく接してくれたり、日本のことを知ろうとしてくれたりしたのでもう一度行ってみたいと思うそんな学校でした。



三輪 七星
(多良小学校6年)

思い出がたくさん ホームステイ



江原 煌子
(安井小学校6年)

私は初めてのホームステイですごく不安でした。でも、ホストファミリーは笑顔で迎えてくれたので安心しました。休みの日には、動物園やメルボルン市内の美術館にいきました。動物園では、カンガルーやコアラにウォンバットなどオーストラリアにいる動物がたくさんいました。そしてすぐ近くで見ることができました。帰る日の前には、シャーロットから手紙をもらいました。オーストラリアの人達は、いつも笑顔で優しい人達です。だから、学校でもホームステイ先でも自然と打ち解けることができたのだと思いました。



ホームステイ先の家族には、高校1年生の年の女の子がいました。好きなものがお互い似ていたで、その話ですごく盛り上がりました。また、日本の文化にとっても興味が有り、日本の習慣で私が「いただきます」や「ごちそうさま」などという「その日本語の意味は何?」などと聞いて一緒に言ったりしました。ホームステイを終えて、私は人と会話をするとき人の目を見られなかったり、うまく話せなかったりするけど、ホームステイで仲良くするために笑顔で目を見て話すことが大切だと学んだのでこれからは経験を生かしていきたいです。



中里 友佳
(東中学校2年)



▲不安がありながらも一番楽しみにしていたホームステイ

研修を終えて



中尾 友紀
(南中学校1年)

研修を通して、主に3つのことを学ぶことができました。1つ目は、コミュニケーションです。最初は、戸惑ってしまいましたが、単語だけでも通じることが分かり、簡単な受け答えだけできるようになりました。2つ目は、世界観が広がったことです。今まで見たことのない建造物、ビルがたくさんあり、とても貴重な体験となりました。3つ目は、日本文化の良さです。文化の違いや日本文化の良い点にありがたさを感じました。研修を終えて、今まで大変視野の狭い中で生きてきたことを痛感しました。もっといろいろな国へ出かけて、さらに違った景色を見たいと強く思いました。



▲大好きなホストファミリーと。休日はMikiと一緒に買い物や映画を見て楽しみました。



▲カンガルーのステーキ意外においしくて日本にもあったらいいなと思いました。

ホームステイ1日目は、恥ずかしくて何を話せばいいかわからなかったけど、ホストファミリーは笑顔でたくさん話しかけてくれました。お土産を渡したらとても喜んでくれました。ホストファミリーからはぬいぐるみやフットボールをもらいました。そしてそのフットボールと一緒に遊んだことがとても印象に残っています。このホームステイで様々なオーストラリアの文化を知ることができてさらにもっといろいろな国のことを知ってみたいと思いました。



安田 翔星
(綾里小学校6年)

メルボルン見学



森川 鈴菜
(赤坂中学校1年)

一番印象に残ったところは「ユレカタタワー」という、メルボルンで一番高いビルです。メルボルン市内を地上約300mから、360度ガラス張りで見渡すことができました。上から見て、日本より高いビルや建築中のビルが多いなあと思いました。日本ではできないであろう体験をたくさんしました。ユレカタタワー、メルボルンスターでの思い出と一緒にオーストラリアの良さを伝えていきたいです。



▲「ユレカタタワー・スカイデッキ88」展望台からの眺め。テニス全豪オープンが開かれる会場が見えました。



▲メルボルンスターの大観覧車

見学した場所を確認しながら乗車したよ。



団長 酒井 俊亘
(南小学校校長)

オーストラリアは様々な人種で構成された多民族国家です。それぞれの文化や生活習慣の違いを認め、一つの国の人間として共に生きています。まさに、共生の国です。1つの価値、1つの見方のみに流されやすい日本人が、グローバル社会で生きていくためには、オーストラリア人のような自由な見方・考え方のできる「寛容さ・柔軟さ」を学ぶべきであると思いました。

研修を通して、子どもたちは英語を学ぶことに加え、人との繋がり、自分自身の成長、日本や大垣の文化の伝承など、多くの面で成長したようでした。私自身も、グレンアイラの方々のあたたかさに触れながら、貴重な出会いをし、成長することができました。今後はこの研修で学んだことを生かし、団員一人ひとりが今後の生活で生かしていけることを願っています。



総務兼通訳
河村 麻衣
(西部中学校教諭)



総務 臼井 伶佳
(協会職員)

私たちは、リコーダーと合唱による発表やホームステイの生活、対話を通して日本の文化・習慣を紹介しながら相互交流を深めてきました。また、オーストラリアの広大な土地と歴史を体感し、交流を通じて、多様な文化が共生していくための手掛かりを学び、人々の結びつきを深めることができたこの研修は団員のみならず、私自身にとっても、私自身にとってもかけがえのない経験となりました。

第8回ベルギー・ナミュール市学生訪問団受入

(10/30~11/5 高校生12名、引率者1名)

日程表

10/30	ようこそ大垣へ! ホストファミリーと対面
10/31	大垣城、表敬訪問、日本文化体験(茶道、琴)、歓迎会
11/1	奥の細道むすびの地記念館、枳作り体験、星和中学校
11/2	平野学園訪問(キーツガーデン幼稚園、清凌高校)
11/3	ホームステイプログラム
11/4	ホストファミリーとお別れ、京都見学(清水寺、金閣寺)
11/5	帰国



大垣市表敬訪問(大垣市役所にて市長、議長と一緒に)

表敬訪問



オラフ・メフテンス団長へ記念品の贈呈

日本語で自己紹介をしました。



歓迎会



訪問団のみなさんからはベルギー・ナミュール市の紹介がありました。

大垣見学



「My枳」作りは慎重に、丁寧に



協会ボランティアの皆さんをはじめ、大垣市民の皆さんと交流しながら茶道や琴、和菓子、枳作り体験を行いました。母国と異なる文化に触れ日本の良さを学ぶことができた貴重な体験となりました。



心がこもった所作に感動しました。

和菓子づくり



水がきれいでおいしい!



大垣市立星和中学校訪問



試合はとても興奮しました!



英語、美術など授業見学のほか、部活動の体験では、なぎなたと剣道を楽しみました。



平野学園キートスガーデン幼稚園訪問



元気いっぱいの子供たちと楽しく交流したよ。



園児たちとゲームをして交流し、給食も一緒にいただきました。

平野学園清凌高等学校訪問



お互いの意見を述べて、同世代交流ができました。



ホームステイプログラム



ホストファミリーと対面



お別れ式

楽しい時間はあっという間でした。また会いましょう!



ホストファミリーと再会の約束をしてたくさんの思い出とともに帰国しました。

京都見学(金閣寺)



お世話になった皆様、ありがとうございました!

大垣市多文化共生推進指針の策定について

1. 策定の経緯

大垣市では、平成23年度に策定した「大垣市多文化共生推進計画」が平成28年度で最終年度を迎えるにあたり、平成29年度から平成33年度までの5年間を期間として、外国人市民の状況変化に柔軟に対応しながら多文化共生施策の方向性を示す「大垣市多文化共生推進指針」を策定しました。

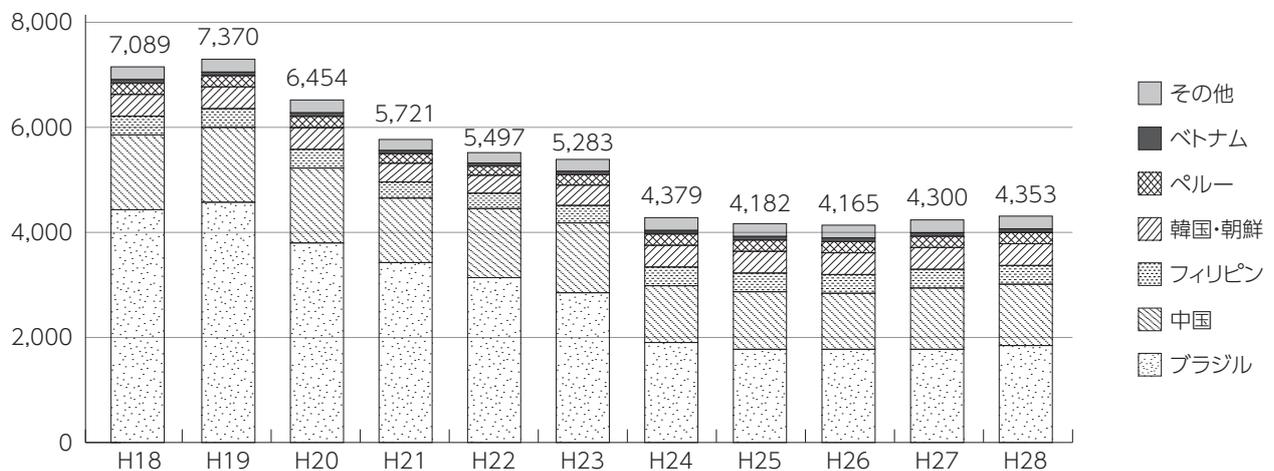
2. 外国人市民の現状と課題

大垣市に暮らす外国人市民は平成20年度から減少傾向にありましたが、近年はほぼ横ばいの状態が続き、平成27年度以降増加しています。

内訳は、平成28年6月現在、ブラジル人(44.6%)、中国人(27.3%)、フィリピン人(8.0%)の順になっています。在留資格は47.8%が永住者であり、その割合は増加しています。

この指針の策定に際し、市民アンケートや学校・企業等へのインタビューを実施したところ、多文化共生社会を実現するためには、外国人市民の日本語能力の不足や、日本人と外国人の相互理解の不足などが課題になっていることが明らかになりました。

〈大垣市に暮らす外国人市民の国籍別内訳(各年度末現在、H28は6月末現在)〉



3. 基本理念と施策体系

現在の課題を解決し多文化共生社会を実現するため、この指針で目指す大垣市の将来像と、基本目標ごとの施策体系を次のとおり定めました。今後はこの施策体系に沿って事業を展開していきます。

基本理念：互いに理解を深め、多様性を活かした多文化共生の地域社会

基本目標① 外国人市民の日本語能力向上

- 施策 外国人市民の日本語学習の支援
- 施策 外国人児童の学習支援

基本目標② 外国人市民に対する相談体制と情報提供の充実

- 施策 多言語による相談体制及び多様な情報提供による外国人市民の支援

基本目標③ 外国人市民と日本人市民の相互理解の向上

- 施策 国際理解教育の推進と交流機会の提供

基本目標④ 外国人市民の防災力向上

- 施策 外国人市民の防災対策の推進



▲プレススクール「きらきら教室」の開催



▲外国人市民向け防災訓練の開催

平成28年度を振り返って

【国際交流・国際理解事業】

《フレンドリーシティ派遣事業》

- ＊ドイツ・シュツットガルト市中学生研修派遣(7/26～8/2(8日間))中学生8名、引率者3名
- ＊オーストラリア・グレンアイラ市小・中学生研修派遣(8/17～8/24(8日間))小中学生9名、引率者3名
- ＊アメリカ・ビーバートン市、ユージーン市高校生研修派遣(10/14～10/22(9日間))高校生10名、引率者3名

《フレンドリーシティ受入事業》

- ＊ベルギー・ナミュール市学生訪問団受入(10/30～11/4(6日間))高校生12名、引率者1名
- ＊中国・邯鄲市学生訪問団受入 中止

《地域国際交流事業》

- ＊親子ふれあい異文化交流会【全7回】(6/19～12/18、毎月第3日曜日)参加者：計278名
- ＊国際交流フェスティバル(元気ハツラツ市)(11/6)ステージ発表(ブラジル武術)



《国際交流ボランティア活動推進事業》

- ＊日本語指導ボランティア講座
1期(8/19～10/21【全8回】) 受講者：32名
2期(12/14～2/5【全7回】) 受講者：21名
講師：大垣市まちづくり推進課職員
日本語学校教師
- ＊ボランティアの集い(3/20)

《外国語基礎会話講座》

- ＊英語基礎会話講座(10/9～11/27【全8回】)
講師：加藤 ミリアム氏(英会話講師) 受講者：17名
- ＊フランス語基礎会話講座(10/19～12/14【全8回】)
講師：西部 美里氏(フランス語通訳) 受講者：13名
- ＊ドイツ語基礎会話講座(1/12～3/23【全8回】)
講師：山田 善久氏(岐阜経済大学教授) 受講者：5名
- ＊韓国語基礎会話講座(1/12～3/2【全8回】)
講師：兪 瑞香氏(韓国語講師) 受講者：7名

《民間国際交流助成事業》

- ＊助成事業：5団体5事業

《海外事情紹介事業》

- ＊多文化紹介講座
・ブラジル、ベトナム、バングラデシュの紹介(8/27)参加者：22名
・アメリカ、ネパール、フィリピンの紹介(1/21)参加者：21名
- ＊海外研修派遣団員報告会
・小中学生派遣(11/19) 参加者：48名
・高校生派遣(12/17) 参加者：29名

《国際相互理解事業》

- ＊事業記録写真等の展示(スイトピアセンターフレンドリーフロアにて)
・海外紹介(海外事情紹介ボランティアによるパネル展示)
・協会事業紹介(事業パネル展示)
- ＊広報事業
・機関誌「フレンドリー」発行(9月、3月)
・ウェブサイトによる広報：随時更新中

【多文化共生事業】

《外国人市民支援事業》

- ＊外国人市民の日本語学習支援
・マンツーマン方式日本語学習支援(毎日(休館日を除く))
学習者数：146名(2月末現在)
ボランティア数：102名(2月末現在)
- ＊外国人市民のための日本語教室
基礎コース【全15回】1期：5～8月、2期：10～1月、
会話コース【全5回】1期：8～9月、2期：1～2月
受講者：計89名
- ・にほんごおしゃべりルーム(毎週日曜日)
- ・就学前外国人児童日本語等指導事業<大垣市受託事業>(11～3月) 参加者：36名
- ＊外国人市民のための相談窓口の設置
・相談窓口(ポルトガル語、中国語、英語)
・行政書士による行政手続き相談会(毎月第1日曜日)
・ポルトガル語によるこころの相談(毎月第2日曜日)
- ＊外国人市民のための行事・講座
・外国人市民のための日本文化講座
和服体験(年13回実施) 参加者：29名
浴衣体験(7/24) 参加者：19名
琴・書道体験(2/19) 参加者：20名
- ・外国人市民のための浴衣着付け体験(8/25、8/26)
参加者：計60名
- ・神輿体験 in 十万石ふる里まつり(10/9)
参加者：21名
- ＊ブラジル人等子弟日本語学習支援事業
・日本語指導者講師派遣(学校法人H I R O学園への派遣)
(毎週火・金曜日)



平成29年度 事業計画

【フレンドリーシティ派遣・受入事業】

- ＊大垣市小・中学生研修派遣(中国・邯鄲市)(8月)
- ＊大垣市中学生研修派遣(ベルギー・ナミュール市)(9月)
- ＊大垣市高校生研修派遣(アメリカ・バーバトン、ユージーン市)(10月)
- ＊中国・邯鄲市学生訪問団受入(8月)
- ＊ドイツ・シュツットガルト市学生訪問団受入(9月)

【地域国際交流事業】

- ＊子ども食文化体験教室(7月、9月、12月)
- ＊国際交流フェスティバル〈元気ハツラツ市〉(11月)

【国際交流ボランティア活動推進事業】

- ＊日本語指導ボランティア講座(6月、9月、12月)
- ＊ボランティアの集い(3月)

【外国語基礎会話講座事業】

- ＊英語基礎会話講座(10月)
- ＊ポルトガル語基礎会話講座(10月)
- ＊韓国語基礎会話講座(1月)
- ＊中国語基礎会話講座(1月)

【海外事情紹介事業】

- ＊海外研修派遣団員報告会(小中学生:11月、高校生:12月)
- ＊多文化紹介講座(8月、1月)

【民間国際交流助成事業】

- ＊民間国際交流団体助成(随時)

【国際相互理解事業】

- ＊事業記録写真等展示(海外紹介、事業紹介)(随時)
- ＊機関誌「フレンドリー」発行(9月、3月)
- ＊ホームページによる広報(<http://www.i-oiea.jp>)

【多文化共生事業】

- ＊外国人市民の日本語学習支援
 - ・マンツーマン方式日本語学習支援(通年)
 - ・にほんごおしゃべりルーム(通年)
 - ・外国人市民のための日本語教室(5月、9月、10月、2月開講)
 - ・就学前外国人児童日本語等指導事業〈大垣市受託事業〉(12～3月)
- ＊相談窓口開設
 - ・相談窓口開設〈ポルトガル語、中国語、英語〉(通年)
 - ・行政書士による行政手続き相談会(毎月第1日曜日)
 - ・ポルトガル語によるこころの相談(毎月第2日曜日)
- ＊外国人市民のための日本文化講座(通年)
- ＊外国人市民のための浴衣着付け体験(8月)
- ＊外国人市民のためのお神輿体験(10月)
- ＊ブラジル人子弟日本語学習支援事業
 - ・日本語指導者派遣(通年)

イ シ フ オ × ー シ ョ ン

＜ボランティア募集＞

公益財団法人大垣国際交流協会(OIEA)では、ホームステイ、日本文化紹介、通訳・翻訳、日本語指導、企画・運営などの各ボランティアを随時募集しております。

＜賛助会員募集＞

OIEAでは国際交流に関心のある方、又OIEAの設立趣旨や活動をご理解のうえ、支援していただける賛助会員制度を設けています。個人会員と団体(法人)会員があり、ご賛同いただける方を広く募集しています。

年会費(1口)は、個人会員:3,000円、団体会員:10,000円です。詳しくは、下記までお問い合わせください。

【みなさまからの情報をお待ちしております】 個人や団体などの国際交流活動、海外での異文化体験などの情報等ありましたら、事務局までお知らせください。また、ご意見、ご感想などありましたら、併せてお寄せください。

編集後記

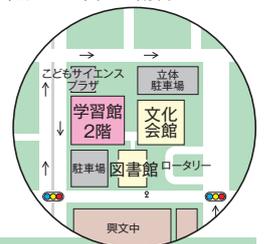
記念すべき、第1回アメリカ合衆国オレゴン州・バーバトン市とユージーン市へ、高校生の研修派遣が実施され、派遣団員は、それぞれに、課題と目標を掲げて出発しました。アメリカでの体験が、将来の自分の夢に向けて拓けることを願って編集しました。前号に掲載できなかった、ドイツ・シュツットガルト市派遣とオーストラリア・グレンアイラ市派遣を掲載しました。小学生・中学生の派遣団員の笑顔が美しく、貴重な体験ができたようです。国際交流は、大垣市の重要施策になっております。益々、若い人を変え、国際交流の理解が深まることを願っています。

大垣市内在住外国人の国籍別人数表

総数:4,460人(9月号との比較 40人増) ※平成29年2月末現在

	人数	9月号との比較		人数	9月号との比較		人数	9月号との比較
ブラジル	1,926	-32	イギリス	10	1	モルドバ	2	0
中国	1,179	-13	台湾	9	1	フィンランド	1	1
フィリピン	366	21	インド	8	1	ドイツ	1	0
韓国又は朝鮮	334	-9	カナダ	7	1	イラン	1	0
ベトナム	154	32	エジプト	6	0	アイルランド	1	0
ペルー	151	-6	ドミニカ共和国	4	0	メキシコ	1	0
ネパール	80	5	ボリビア	3	0	オランダ	1	0
アメリカ合衆国	39	5	コロンビア	3	0	ニュージーランド	1	1
カンボジア	27	2	ラオス	3	0	パラグアイ	1	0
インドネシア	27	4	シンガポール	3	3	ルーマニア	1	0
タイ	24	2	トルコ	3	1	スウェーデン	1	0
スリランカ	16	4	アルゼンチン	2	0	南アフリカ共和国	1	-1
ミャンマー	15	15	オーストラリア	2	0	無国籍	4	-1
パキスタン	14	5	イタリア	2	0			
バングラデシュ	12	-3	モンゴル	2	0			
マレーシア	10	0	ウクライナ	2	0			

総人口に占める割合 2.8%



フレンドリー No.84

編集/公益財団法人 大垣国際交流協会 広報委員会

〒503-0911 大垣市室本町5丁目51番地 スイピアセンター学習館2階

TEL(0584)82-2311 FAX(0584)82-2314

<http://www.i-oiea.jp/> [E-mail] oiea@mb.ginet.or.jp

発行/2017年3月

印刷/サンメッセ株式会社